

二回のドッジボール大会を終えて

### 3 学年代表児童

いつもより少し早く始まった二学期、ぼくの頭の中はドッジボールでいっぱいでした。早く校庭に出てドッジボールがしたくて、教室のドアの前で昼休みになるのを待ちかまえ、急いで昇降口へ行き、思いつき遊びのがぼくたちの日課でした。

二学期が始まってしばらくたったころ、昼休み初めのチャイムがなるまでは、自分の席にいななければいけないことや、ろう下やかいだんは歩かなければいけないことなど、ルールを守らない人がたくさんいてあぶないということが学年の中で問題になりました。ぼくは、「ルールは守ろう。正しいことがしたい。」と思い、友だちと声をかけ合って直しました。同じころ、ドッジボールでもルールを守らない友だちがいて、みんな楽しく遊べなくなっていました。そんな中、学年でドッジボール大会をしようという提案がありました。ぼくはすぐに、実行委員に立こうほすることに決めました。みんなでルールを守って楽しく、公平な大会にしたかったからです。どうすれば、けんかが起きず、楽しい大会になるかを実行委員全員で話し合い

を重ねました。休み時間に集まって、めあてを決めたり対戦表を作ったりするのは楽しかったけれど、反面、とつても大へんでした。

むかえた第一回ドッジボール大会、ぼくらのクラスは、男子は全勝したけれど、女子は全敗でした。女子はくやしくてみんな泣いていて、他のクラスにも泣いている人や、ルールを守れなかった人がいて、怒っている人もいました。ぼくは、「今日の大会は目標がたっせいできていない人がいた。何かちがったのかな。」と違って、くやしくなりました。

教室にもどって、きゅう食の前にさっきまで泣いていたクラスの子が、「もう一回やりたい。」と言い先生に話しに行きました。先生は、「自分たちで全部できるなら、第二回ドッジボール大会をやってもいい。」と言ってくれました。

ぼくは、さっそく実行委員に立こうほし、実行委員長を引き受けました。今度こそ、みんなが楽しめる大会にするため、みんなで話し合っって新たな目標を立てました。

- ・みんなのきずなをさらに深め合う大会
  - ・みんなが笑って終われる大会
- の二つです。

第二回の大会に向けて、どのクラスも作戦を立て、練習するようになりしました。休み時間になると、「歩く！走ったらやり直し！」と声をかけ合いながら、みんなできそうように速歩きで外に出るようになりしました。

ドッジボール大会をすることで学年みんながルールを考えたり、意識したりすることができるようになってきた気がします。そして気づくと、今まで少人数だったドッジボールに男子も女子も参加していました。

第二回ドッジボール大会は、勝っても負けても、みんながとても楽しんでるように見えました。終わった後にも「楽しかった。」という声がたくさん聞こえてきて、準備はとても大変だったけど、うれしかったです。大会が成功したのは、実行委員をいっしょにがんばってくれた友だちがいたからです。

これからも、ルールの意味を考えたり、友だちと楽しい時間を作っていくたりできるような自分でいたいと思っています。